

平成 27 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	倫理	担当教員	伊藤隆博		
学年学科	2年 M・E・D 学科	通年	必修	2 単位	
学習・教育目標	(A-1) 100%		JABEE 基準 1 (1) (a) 50%、(f) 50%		
授業の目標と期待される効果： われわれは人生の日々のなかで、さまざまな問いを自らに投げかけ、悩みながら生きている。その際、有益な示唆を与えてくれるのは、先人たちが残してくれた数多の言葉である。倫理の授業では、古今東西の思想家（哲学者・宗教家）たちを取り上げ、彼らがたどった軌跡、ならびに、彼らの思想内容を学習する。1 年間の授業を通して、人間の生き方・あり方について、主体的に考える力を身につけていく。具体的な目標は以下の通り。 ① 人類の知的遺産について知識を広げる。 ② 異文化や多様な価値観への理解・関心を深める。 ③ 社会的諸問題に対する倫理的判断力を養成する。		成績評価の方法： 以下の総得点 600 点に占める得点率で最終評価を行なう。 前期：中間試験 100 点＋期末試験 100 点＋課題提出 100 点 後期：中間試験 100 点＋期末試験 100 点＋課題提出 100 点 達成度評価の基準： 以下の各要素についての達成度を成績評価の基準とする。 ① 人類の知的遺産について、正しい知識を習得したか。 ② 異文化や多様な価値観への理解・関心が深まったか。 ③ 社会的諸問題に対し論理的に考え、倫理的な判断を下す力が身についたか。			
授業の進め方とアドバイス： 授業は、教科書・図説（資料集）を使用した講義形式で行なう。授業では、多くの思想家（哲学者・宗教家）を取り上げ、彼らの思想のエッセンスを説明していく。必要に応じて、学生の見解を求める場合があるので、積極的な授業参加を求める。					
教科書および参考書： 『倫理』（東京書籍）を教科書とし、『新編アプローチ倫理資料』（とうほう）を副教材として使用する。また、適時プリント等を配布する。					
授業の概要と予定：前期					AL のレベル
第 1 回：導入					
第 2 回：古代ギリシア思想（1）					
第 3 回：古代ギリシア思想（2）					
第 4 回：古代ギリシア思想（3）					
第 5 回：ユダヤ教とキリスト教（1）					
第 6 回：ユダヤ教とキリスト教（2）					
第 7 回：イスラーム教					
第 8 回：中間試験					
第 9 回：古代インドの思想（1）					
第 10 回：古代インドの思想（2）					
第 11 回：古代中国の思想（1）					
第 12 回：古代中国の思想（2）					
第 13 回：古代日本の思想					
第 14 回：日本仏教（1）					
第 15 回：日本仏教（2）					
期末試験					
第 16 回：フォローアップ（期末試験の解答の解説など）					

授業の概要と予定：後期	AL のレベル
第17回：江戸の思想（1）	
第18回：江戸の思想（2）	
第19回：明治の思想（1）	
第20回：明治の思想（2）	
第21回：ルネサンス	
第22回：宗教改革	
第23回：合理論と経験論	
第24回：中間試験	
第25回：社会契約説	
第26回：ドイツ観念論	
第27回：功利主義	
第28回：社会主義	
第29回：実存主義	
第30回：現代のヒューマニズム	
第31回：「私」とは何か	
期末試験	
第32回：フォローアップ（期末試験の解答の解説など）	

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	人類の知的遺産について、正しい知識を相当習得した。	人類の知的遺産について、正しい知識を習得した。	人類の知的遺産について、正しい知識を習得できなかった。
②	異文化や多様な価値観への理解・関心が相当深まった。	異文化や多様な価値観への理解・関心が深まった。	異文化や多様な価値観への理解・関心が深まらなかった。
③	社会的諸問題に対し、論理的に考え、倫理的な判断を下す力が相当身についた。	社会的諸問題に対し、論理的に考え、倫理的な判断を下す力が身についた。	社会的諸問題に対し、論理的に考え、倫理的な判断を下す力が身につかなかった。